

第2章 研究の内容 5. 5B児事例

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-01-06 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00064697

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



5. 5B児事例

草場 勇介

抽出児について：5B児（女児）

・1学期の様子

探究心について：気の合う友達と一緒に遊ぶ中で、チョウの捕まえ方を工夫したり、ホースが届かないところに水を流すにはどうしたら良いか考えたりする様子が見られる。一人で遊ぶことは無く、遊ぶ友達が決まってから何をして遊ぶか決めている。

自己主張について：4歳児学級の時には友達とごっこ遊びをしている中で、自分の思いを一方向的に通そうとすることがあったが、5歳児学級に進級してからはあまり見られない。他の幼児が間違っていたり困ったりしている時に、教師にその様子を伝えに来ることが多く、「自分から話してみたらどう？」と友達との関わりを促しているところである。

自己抑制について：相手の様子を見ながら行動している姿が見られる。しかし、相手に「どうする？」と聞いたり、相手に任せたりすることの方が多い。

・抽出児とした理由

探究する姿がそれほど見られないと思い、本児の探究心について探っていきたいと考えた。自己主張が一時期より減ってきていることと、教師や友達に任せたり頼ったりしている姿が見られることから、自分から行動したり相手に話したりするようになるにはどう援助していけばよいか考えていきたいという点も理由としてある。

事例5-1 5B児 9月7日 「なんかね、やってみたらドロドロになった！」

探究心:物事の仕組みや性質,原因を知ったり確かめたりしようとする事

幼児の姿

1学期から花を使った色水遊びを楽しんできた。2学期に入ってから引き続き色水遊びをして遊んでおり、この日も色水遊びをしようと5B児,5P児,5Q児,5R児が色水遊びコーナーに集まってきた。しかし、アサガオやマリーゴールドなどの色が出る花が無かった。5B児と5P児が「先生、もうお花ない」と話してきたので、「そうねん、もう無いんよ。お花じゃないので色出るものないかな?」と答えた。5B児と5P児は困った様子だったが、5R児と5Q児は1学期にも花が無い

(環境構成)

1学期は花壇に植えてあるマリーゴールドが枯れ落ちたものやアジサイなどを使って色水を作っていた。色水遊びに使えるように植えておいたアサガオもまだ咲き始めたばかりで枯れ落ちる花も少なく、1学期にとっておいたマリーゴールドも昨日で無くなっていた。

時に葉っぱで色水をつくっていたので、葉っぱを採ってきて色水を作り始めた。①その様子を見て、5B児と5P児も葉っぱを探しに行った。

5B児が持ってきた葉っぱで色水をつくるが、あまり色が出なかった。②5B児は「いろいろもってくる」と言い、オオバコやタンポポ等いろいろな葉っぱを集めてきた。段ボールカッターで刻み、すり鉢に入れて水を加えながらすり潰して色が出るか試している。教師はその場を離れたが、しばらくすると、5B児と5P児が「先生！なんかドロドロになった！」と呼びに来た。見ると、アベマキの葉を使って薄い黄緑色の色水をつくっていた。すりこぎで液体を持ち上げるようにしてドロドロな様子を教師に見せながら、

③5B児 「なんかね、やってみたらドロドロになった！」

教師 「どの葉っぱでつくったの？」

5P児 「これ！5B児ちゃんが見つけたの！」

教師 「なるほど、この葉っぱで色水つくとドロドロのができるんだ。不思議だねえ～」

5B児 「何でドロドロなの～！」

と話し、2人はその驚きを確かめ合うように喜んでいた。

探究心

- ① 花が無いことで少し意欲が落ちていたが、友達の様子を見て興味をもっている 好奇心

探究心

- ② 一度試してみたことで、どの葉っぱなら色が出るか、試したい気持ち生まれ、色々な葉っぱを試している 試行 気付き

探究心

- ③ 試した結果が予想外のものになり、友達と共有したり、教師に伝えたりしてその驚きや喜びを味わっている 驚き 共有

事例5-2 5B児 1月20日 「……あっ！陰じゃない？」

探究心:物事の仕組みや性質,原因を知ったり確かめたりしようとする事

幼児の姿

1週間程前に、氷についての絵本を読んだ。その後すぐ、多くの幼児が氷を作ろうとカップやプラスチック容器、ペットボトルのふた等に水や落ち葉、木の枝を入れて、氷ができるのを楽しみにしていた。毎日、登園するとすぐに氷ができているか確かめる日が続き、①5B児も「今日は雪が凍ったから(氷が)できてるかも！」と期待して登園していた。

この日、一番に保育室に入ってきた5V児が、すぐにテラスにある容器を見に行き、「うわっ！出来てる！」と叫んだ。そこから登園した幼児が皆、氷ができているか確かめに行き、できた氷を飾ったり、日に当てたりしてその綺麗さや不思議さを味わっていた。5B児も氷ができているか確かめたが、5B児の容器には氷ができなかった。5B児は友達の水を見たり触ったりしてしばらく楽しんでいたら、②自分の容器の所

探究心

- ① 氷をつくることに興味をもち、天候と結び付けて考えたり、氷ができることに期待したりしている 推測 期待

探究心

- ② できた氷の方に興味が向き、その面白さを感じているが、やはり自分の用意したものが凍っていないことが気になり、理由を知りたいと思っている 確認 疑問

に戻ってきた。

5B児 「何でできないんだろう？」

教師 「氷ができたやつとできなかったやつがあるねえ。
何でだろう？」

5S児 「雪入れたら凍るんじゃない？」

5T児 「えー、私の雪入れてないよ？」

5U児 「雪の上において置いたら凍るとか」

5B児 「でも5T児ちゃんのやつここ（机の上）に置いてあ
ったじゃん」

5V児 「光じゃない？あつたかいから溶けたんだって」

③5B児 「……あつ、陰じゃない？陰に置いたら凍るってこ
とじゃない？」

5V児 「……陰だ！」

5B児の言葉を聞いた5V児は急いでプラスチック容器に水を入
れ、陰になっている場所に置き始めた。④5B児もその隣に
水を入れなおした容器を置き、二人で「よし！」と言って保
育室に戻った。

探究心

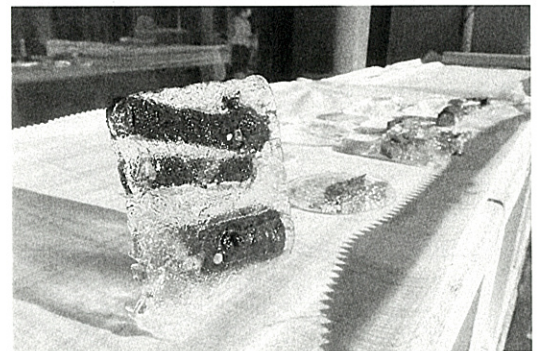
③ 友達の話を聞きながら自分でも
考えていたところ、5V児の言葉
や今までの経験から、確からし
い理由をひらめいた

推測

探究心

④ 自分たちの仮説を確かめよう
と、確かめられるように用意し、
満足感を感じている

試行



事例5-3 5B児 10月28日 「ここ空いてる？」

自己主張:相手に対して自分の気持ちを説明したり、表現したりすること

幼児の姿

箱形の大形構成遊具を使って猫の家をつくり、数人が
猫のおうちごっこをして遊んでいた。5B児はそこに加わ
りたいと思い、空いているゲームボックスに入ろうとし
た。そこに5W児が来たので、5B児が5W児に尋ねた。

5B児 「5W児ちゃん、ここ入っていい？」

5W児 「だめ。そこ5T児ちゃんのおうちだから」

①5B児 「(その隣を指さして) ここは？」

5W児 「そこもだめ。5Q児ちゃんのおうち」

5B児が困ったような顔をして考えていたように見え
たので、教師が声をかけた。

教師 「何かあった？」

5B児 「別に。何で？」

自己主張

① 一度だめと言われるが、自分の思いを
実現しようと、場の状況を読み取りな
がら、諦めず交渉している

粘り強さ

(教師の援助)

5W児は影響力があり、5B児が2回
断られているのを見て、教師の手助
けが必要かどうか探るため声をか
けた。あまり直接的に声を掛けると
5B児の行動に影響が出てしまうと
思い、漠然と「何かあった？」と尋
ねることにした。

教師 「なんか困った顔してたから」

5B児 「ううん」

5B児はしばらくその場で猫のおうちごっこの様子を見ていた後、②他の家に入っている友達に「ここ空いてる？」と聞いてまわり、空いているところが見つかったのでそこに入って自分の家とし、猫のおうちごっこに加わって遊び始めた。

自己主張

- ② 空いている場所でも誰かが使っているかもしれないという事を考え、様子を見たり確認を取ったりして自分の思いを実現しようと行動している

確認

事例5-4 5B児 2月19日 「みんな集まってー！」

自己主張:相手に対して自分の気持ちを説明したり、表現したりすること

幼児の姿

プレイルームで5B児, 5P児, 5V児, 5X児らが10人程でバナナおにををしていた。5V児がリーダーシップをとって進めているが、5B児が困った顔をしている。5B児はウロウロとしながら、5P児に話しかけていた。少し様子を見ていたが、様子が変わらなかったため教師が声を掛けた。

教師 「どうしたの？」

①5B児 「おにが少ないからおにになりたいんだけど…。5V児くんがダメって…」

教師 「そうなんや。5V児くんに言ってみら？」

5B児 「言ったんだけど聞いてくれない…」

5V児はバナナおにに夢中で走り回っている。

教師 「そんな時は、『みんな集まってー！』って言うてみたらどう？」

5B児 「うん……」

②少し戸惑いながらも、5B児は5V児の近くまで行き、「みんな集まってー！」と大きめの声で言った。5B児は5V児に「5B児もおにになりたい」と伝え、5V児は皆に相談しはじめた。皆で現在のおにの数と逃げる人の数を確認し、5B児と5P児もおにとなってバナナおにが再開した。

自己主張

- ① 5V児に自分の考えを伝えて断られるも納得できておらず、自分の思いを教師に伝える

説明

(教師の援助)

5B児の様子を少し見守ったが自分から動くことが難しそうだったので、一つの方法として皆に呼びかけることを提案した。

自己主張

- ② 皆がそれぞれ動いている中で、何とか自分の考えを伝えようと、大きな声で呼びかけている

呼びかけ

事例5-5 5B児 2月22日 「みんな集まってー！5X児ちゃんが泣いてる！」

自己主張：相手に対して自分の気持ちを説明したり、表現したりすること

幼児の姿

園庭で20人程が集まり転がしドッジボールをしていた。5X児、5E児、5A児の3人が残ったまましばらくゲームが続き、5Y児が5X児を当てて残りが2人になった。5X児は外野に移動したが、シクシクと泣き始めた。しかし、皆遊びに夢中で気付いていない様子だった。すると、5X児が泣いていることに気付いた①5B児が「みんな集まってー！5X児ちゃんが泣いてる！」と大きな声で皆を集め、話し合いになった。

5X児は「私ばかり狙われてたから嫌だった」と話して泣いていた。5B児が5X児に「誰が狙ってたの？男の子？」と聞くと、5X児が頷く。②5B児は「5X児ちゃんは、5X児ちゃんばかり狙ってほしくなかったんだよね」と5X児の気持ちを代弁したり、話の輪から外れていく友達を引き戻したりと、話し合いを続け解決しようとしていた。

5X児 「5Z児くん5X児のこと…」

5B児 「(5X児の顔を見て) どうする…？」

5A児 「5Z児くん狙ってないでしょ？」

5Z児 「(無言で頷く)」

5B児 「(5X児に向けて) 困ったね」

5X児 「…でも5Z児くんさ、私をちょっと……いっばい当ててたじゃん…」

5Z児 「……(困った顔をしている)」

5B児 「(5Z児に) 違う？」

5Z児は一度首をかしげてから、頷いた。

5B児 「(5X児に向けて) 違うって言ってるよ？」

5Z児 「……ちょっとだけしか狙ってなかった」

この後話し合いは少し続くが、50児が「ねえもう一回最初っからやったら？」と提案し、最初からすることになった。③5B児はまず5X児に「もう一回最初からやろう」と伝えに行き、次にさっき内野にまだ残っていた5A児にも「いい？」と確認していた。



自己主張

- ① 近くにいる人や気の合う友達だけではなく、ドッジボールをしている皆に対して呼びかけている 呼びかけ

自己主張

- ② 5X児の気持ちを理解し、自分の言葉で5X児の気持ちを代弁しており、同時にそのことに対する同意を表している 代弁

自己主張

- ③ まだ内野に残っていた人が最初からすることを嫌がるかもしれないと考え、このまま最初から始めて良いかどうか、個別に確認している 推察 状況確認

(補足)

先のゲームでもう一人外野に残っていた5E児に声を掛けなかったのは、5E児がもう一度することを友達に伝えている姿を見たからだと思われる。

事例5-6 5B児 10月1日 「は? どういうこと?」

自己抑制: 自分の気持ちを抑えて行動すること

幼児の姿

4つのボールを交互に投げ、そのボールの止まった位置で点数を競うペタンクというゲームを5S児と5V児がしていた。5B児や5b児たちはその周りでゲームを見ながら順番を待っている。5V児が投げたボールが枠の外に出ていってしまった。

5S児 「もう1回や、もう1回やる」

それを聞いた5B児は、枠内にあったボールを全て外へ出した。

5S児 「そういうことじゃないって! どうして出すの?!」

5B児 「は? どういうこと?」

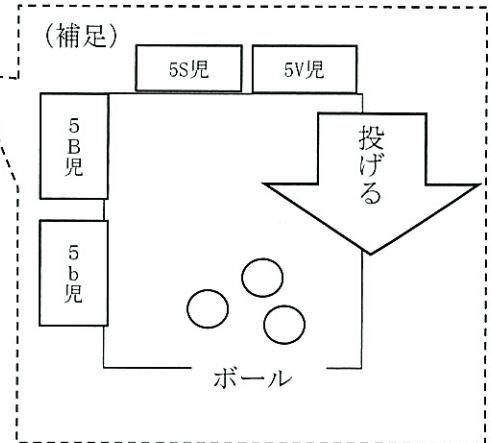
5V児 「もう1回投げるって言ってるのにどうして全部出しちゃうの? あーあ」

5S児 「あーあ」

投げたボールが枠外に飛んで行ってしまった場合は、やり直してそのボールをもう一度投げる、というルールは、よくこのゲームをしていた5S児や5V児、5b児は分かっていたが、5B児は知らなかった。5B児は落ち込んだ様子で涙ぐんだ。それを見た5b児が少し慌てた様子で声をかけた。

5b児 「1個だけやり直すのを5B児ちゃんが間違えて全部出しちゃっただけだから、5B児ちゃんは悪くないからね。ね?」

①5b児の言葉を聞いて5B児は泣きながらうなずく。5S児と5V児は5b児の言葉を聞いてバツの悪そうなハツという表情になり、5B児がボールを外に出した理由が分かった様子だった。5B児は涙を拭いて、5S児と5V児のしているゲームの様子を見ていた。5b児はずっと5B児の隣に座って一緒に見ていた。5S児と5V児のゲームが終わると、①5B児と5b児は二人でゲームを始めた。5B児は気持ちが切り替わっている様子だった。



自己抑制

- ① 自分が何故ボールを外に出したかという理由を理解してくれた5b児の言葉を聞いて、励まされたり、自分の気持ちを整理したりしていると思われる。その後も5b児が側にいてくれたことで、悲しい気持ちを切り替えてまたゲームを楽しもうとしている

受け入れられること

切り替え

事例5-7 5B児 1月14日 椅子取りゲーム

自己抑制:自分の気持ちを抑えて行動すること

幼児の姿

5B児, 5P児, 5C児, 5V児, 5W児, 5T児, 5Q児が椅子取りゲームをして遊んでいた。三つとなった席に5V児と5Q児が座り, 残り一つに5W児と5T児が座ったが互いに主張し合っていたので, ゲームが止まった。

5B児 「じゃあ, どうするの?どっちかが譲らないと…。ジャンケン嫌いな人もいるし…。」

5T児, 5W児 「…じゃあ, やめよ?」

5T児と5W児は2人だけでそう決めて, 抜けていった。5B児は困った表情で2人を追いかけていき, 2人の間に入って「でも, それじゃ椅子取りゲームの人, 少なくなっちゃう…」と話した。その様子を見ていた5Q児は「わたしも」といい5T児と5W児の元へ向かった。5V児が「えー!!」と言いながら5T児, 5W児, 5Q児を引き留めようとするが, 3人は話を聞かずに次に何をしようか相談し始めた。その様子を見て教師が3人を呼び戻し, 声を掛けた。

教師 「どうしたの?」

5B児 「5W児ちゃんと5T児ちゃんが一緒に椅子に座ったんだけど, どっちが先か分からなくて困ってて, そしたら5W児ちゃんたちがやめるって言って, 椅子取りゲームする人がいなくなっちゃった」

5B児 「……(5W児, 5T児の顔を見て)5B児, やめてほしくない」

5P児 「わたしも」

教師 「なるほど。解決したいってことなんだね」

5Q児 「じゃあ, 2人だけでやり直ししたらいいんじゃない?」

5T児, 5W児 「……………」

5V児 「5T児ちゃんと5W児ちゃんが何も言わないから分かんない!」

話し合いの間中, 5T児と5W児は時折2人で顔を見合わせるだけで, 何も話さなかった。少しの沈黙の後, 5b児が「5b児もやりたい」と入ってきた。そこで, 5W児は皆に「じゃあ, 代わりに5b児ちゃんが入るから, これでいい?」と確認した。①5B児は5P児と顔を見合わせて少し困った様子だったが, 5V児の「よし!やろやろ!」の声を聞き, ニッコとして椅子を並べ始めた。5W児, 5T児, 5Q児が抜けて代わりに5b児が入って椅子取りゲームが再開した。

(教師の援助)

5B児が楽しく遊びを続けたいと思い働きかけていることを手助けしたいという思いと, 5W児と5T児には一緒に遊んでいる友達の思いをしっかり受け止めてほしいという思いで, 呼び戻して話し合う場をつくった。

自己抑制

- ① 5T児, 5W児, 5Q児と一緒に遊びたい思いや3人減ってしまうことに対する思いはあるが, 5b児が来てくれたことと5V児の言葉から, 気持ちを切り替えて楽しく遊ぼうとする

切り替え

自己抑制:自分の気持ちを抑えて行動すること

幼児の姿

プレイルームで5B児, 5P児, 5V児, 5X児らが10人程でバナナおにををしていた。5V児がリーダーシップをとって進めているが, 5B児が困った顔をしている。①5B児はウロウロとしながら, 5P児に話しかけていた。少し様子を見ていたが, 様子が変わらなかったので教師が声を掛けた。

教師 「どうしたの？」

①5B児 「おにが少ないからおにになりたいんだけど…。5V児くんがダメって…」

教師 「そうなんや。5V児くんに言ってみたら？」

①5B児 「言ったんだけど聞いてくれない…」

5V児はバナナおにに夢中で走り回っている。

教師 「そんな時は、『みんな集まってー！』って言ってみたらどう？」

5B児 「うん……」

少し戸惑いながらも, 5B児は5V児の近くまで行き, 「みんな集まってー！」と大きめの声で言った。5B児は5V児に「5B児もおにになりたい」と伝え, 5V児は皆に相談しはじめた。皆で現在のおにの数と逃げる人の数を確認し, 5B児と5P児もおにとなってバナナおにが再開した。

自己抑制

- ① 5V児に自分の考えを伝えて断られるも, おにになりたい気持ちがあり, どうしようか悩んでいる

葛藤

(教師の援助)

5B児の様子を少し見守ったが自分から動くことが難しそうだったので, 一つの方法として皆に呼びかけることを提案した。

考察 -5B児の1年を振り返って-

1. 「探究心」「自己主張」「自己抑制」の発達の様相について

(1) 「探究心」について

事例5-1では好奇心をもったものに対して、その場で色々と**試行**しながら**気付き**を得ているが、事例5-2では今までの体験や友達の考えから、**理由付け**をしたり**予測**をしたりと、思考の内容が高度になっており、好奇心の持続も見られる。色水づくりはその場ですぐに変化が見えるが、氷はその場ですぐにつくられることはない。日を置くことが前提となる氷づくりに興味をもつということが、現在だけでなく過去や未来のことを扱うことができるようになるという思考力の成長とも関係していると考えられる。

(2) 「自己主張」について

事例5-3では友達に交渉するが上手くいかなかったことから、自分で**状況を確認**し、それに合わせて行動していた。それは、自分の思いの実現のための行動であったが、事例5-5では、泣いている友達に**気付き**その思いを**代弁**したり、中断してしまった**転がしドッジボール**を再開しようとしていたりしているように、相手や自分を含む遊び仲間のために自己主張している。

(3) 「自己抑制」について

事例5-6は友達が心情を察して受け入れてくれたことで、**気持ちを切り替え**遊び始めている。**受け入れられる**体験は、他者の提案等を自分が受け入れることに繋がっていると考えられる。しかし、事例5-6から事例5-7にかけての変化は見られなかった。変化が見られなかった理由は十分に抽出児の姿を捉え切れていない為と考えられるが、既に自己抑制がある程度身に付いていたからとも考えることができる。

2. 環境の構成と教師の援助について

「探究心」の発達において、事例5-1、5-2に共通して自然物に対する好奇心が高まるような環境の構成が有効であったと考えられる。色水遊びでは、綺麗な色や濃い色が出るような花を育てたり、長く楽しめるよう咲き終わった花を取っておいたりした。氷づくりでは、それに興味をもてるような絵本を読んだり、試すことができる材料を用意して置いたりした。さらには、間接的な環境の構成として挙げるならば、本園では5歳児が年間を通して自然体験インストラクターの方と里山で遊んだり、稲作体験で田圃やその周りで遊んだりする機会があり、自然物に対する好奇心が高まる環境の構成となっているのではないかと考えられる。

「自己主張」の発達において、相手や自分を含む遊び仲間のために自己主張するようになっていく過程では、友達とつなぐ援助と集団での遊びを楽しむ環境の構成が有効であったと考えられる。事例5-4の様に相手に伝える方法を提案するだけでなく、集団での遊びを楽しむこ

とを繰り返す中で、困ったことがあった時に集まって相談する、という体験を積み重ねられるよう援助してきた。困ったことを解決していく中で、相手はどう感じたり考えたりしたかを確認することも繰り返して行ってきた。その援助が事例5-5での相手の思いを代弁する姿に繋がっていると考えられる。

「自己抑制」の発達において、直接的援助としては、事例5-7のように相手に対してどう伝えようか悩んでいる際に、その伝え方を提案したり、話し合う場を設けたりしてきたことが、葛藤する中で自分がどう行動するかを考えることに繋がっていると考える。